



きらっと いざいざ あったかい
高知家の教育

第3期教育等の振興に関する施策の大綱（改訂）

基本目標の達成を測る目安となる 測定指標の状況（令和7年12月末）

基本目標1 「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」 P2～3

基本目標2 「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」 P4～5

基本目標3 「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」 P6～9

基本目標の達成を測る目安となる測定指標の状況（令和7年12月末）

◆基本目標の達成に向けた取組の進捗や施策の成果・課題を把握するため、測定指標を設定し、P D C Aサイクルに基づく進捗管理を徹底

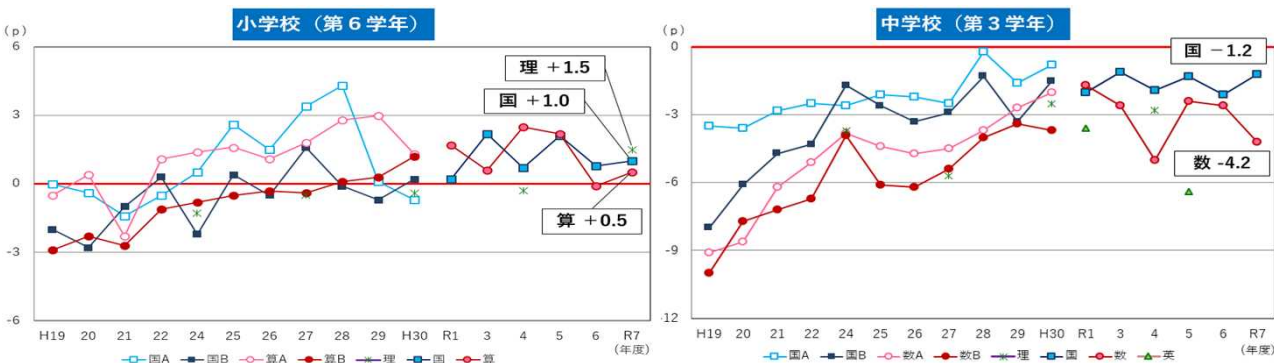
基本目標1「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

＜測定指標＞【義務教育段階】

全国学力・学習状況調査（小学校6年、中学校3年）において、

- 小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。
- 中学校の学力は全国平均に引き上げる。

全国学力・学習状況調査結果 ※本県と全国の平均正答率の差（教科、問題別）



中学校 理科 平均IRTスコア		
	高知県（公立）	全国（公立）
令和7年度	483	503

※中学校理科は、IRTにて実施。IRTとは、各設問の正誤が、問題の難易度によるのか、学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力を推定する統計理論であり、500を基準にした得点で表すもの。

※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施

※令和元年度からは、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）を一体的に問う調査に変更

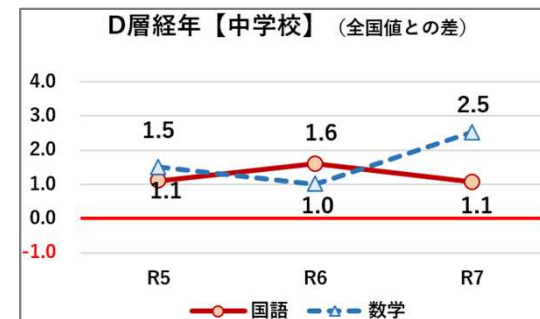
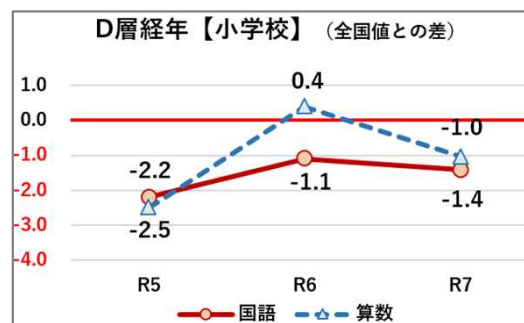
■ 小学校の国語は、県の平均正答率が67.8%で、全国平均を1.0ポイント、算数は、県の平均正答率が58.5%で、全国平均を0.5ポイント上回っている。前回調査と比較すると、国語は、0.2ポイント（R6：+0.8p→R7：+1.0p）、算数は、0.6ポイント（R6：-0.1→R7：+0.5p）、理科は、1.8ポイント（R4：-0.3p→R7：1.5p）上昇した。

■ 中学校の国語は、県の平均正答率が53.1%で、全国平均を1.2ポイント、数学は、県の平均正答率が44.1%で、全国平均を4.2ポイント下回った。前回調査と比較すると、国語は0.9ポイント（R6：-2.1p→R7：-1.2p）上昇し、数学は1.6ポイント（R6：-2.6p→R7：-4.2p）下降した。

■ 小・中学校の学力の状況を本県と全国の平均正答率との差（教科、問題別）で見ると、小学校は、国語・算数はともに全国平均以上となっているが、中学校は、国語・数学・理科ともに全国平均に達していない。

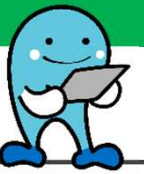
- 全国学力・学習状況調査（小学校6年、中学校3年）において、
- <小学校> D層*の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。
 - <中学校> D層*の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

【義務教育段階】*全国学力・学習状況調査では、文部科学省が児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。（上位からA層、B層、C層、D層）それに本県の児童生徒の状況を当てはめて、D層の割合を示している。



■ 全国のD層にあたる高知県の児童生徒の割合について、小学校の国語は、全国を1.4ポイント、算数は、1.0ポイント、理科は2.9ポイント下回った。前回調査と比較すると、国語は、0.3ポイント（R6：-1.1p→R7：-1.4p）、算数は、1.4ポイント（R6：+0.4p→R7：-1.0p）改善した。

■ 中学校国語は、全国を1.1ポイント、数学は、全国を2.5ポイント上回った。前回調査と比較すると、国語は、0.5ポイント（R6：+1.6p→R7：+1.1p）改善し、数学は、1.5ポイント（R6：+1.0p→R7：+2.5p）増加した。



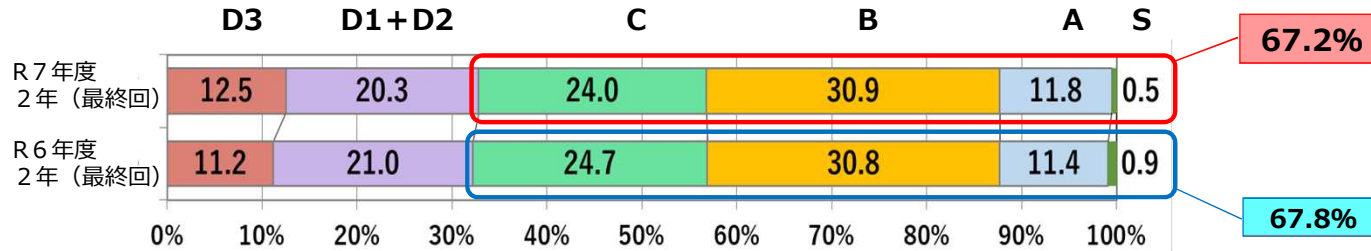
基本目標 1 「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

＜測定指標＞【高等学校段階】

県調査において、

●学力定着把握検査（高校2年）におけるC層*以上の生徒の割合を65%以上とする。

学力定着把握検査結果（対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒）



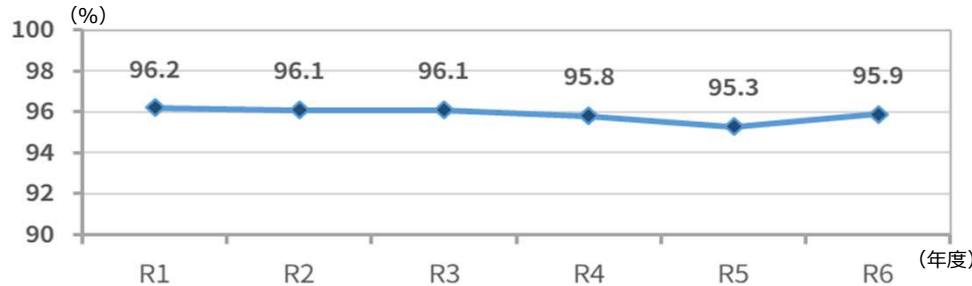
【高等学校段階】 *学力定着把握検査の評価尺度では、学習到達ゾーンとして上位からS層、A層、B層、C層、D層と区分されている。その中でC層は基本的な問題に取り組むのに必要な知識が身につけているとされる。

- 令和7年度高校2年（最終回）の検査の結果は、令和6年度と比較して、C層以上の生徒の割合が0.6ポイント低下しているが、目標の65%以上を達成することができている。
- 入学当初（令和6年度1年）からは6.3ポイント上昇している。

県調査において、

●高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。

県高等学校就職対策連絡協議会調査結果（対象：全日制・定時制・通信制の全公立高等学校の生徒）



※進路未決定者数には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む（在学中からの就職継続者及び就労支援訓練者は含まない）

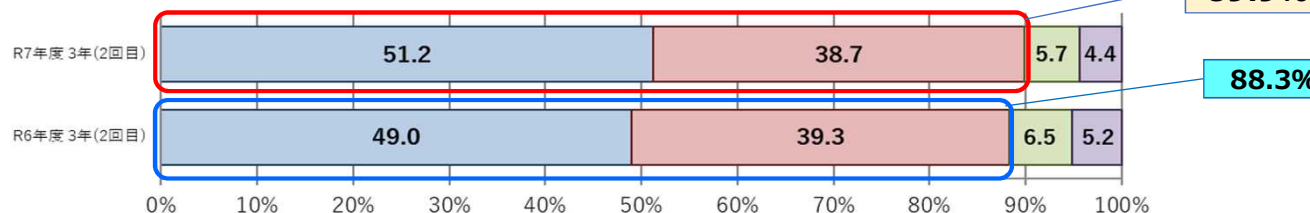
- 進路決定者数の全体の割合は、令和5年度と比較すると0.6ポイント増加（R5:95.3%→R6:95.9%）している。進路未決定者数の課程別割合は、全日制で2.4%、定時制で26.1%、通信制で40.2%と、通信制が多い。
- 高校卒業時に、進学未決定者は10名減少（R5:45名→R6:35名）、就職未内定者は10名増加（R5:14名→R6:24名）、進路未決定者は21名減少（R5:112名→R6:91名）している。ただし、予備校等に通う者は進学者としてカウントしている。

県調査において、

●高校3年で「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

県オリジナルアンケート結果（対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒）

＜参考＞ □①あてはまる □②どちらかといえばあてはまる □③どちらかといえばあてはまらない □④あてはまらない

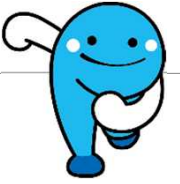


※第1回県オリジナルアンケート実施期間：令和7年6月2日～6月20日
第2回県オリジナルアンケート実施期間：令和7年11月4日～12月4日

- 3年生2回目の肯定的回答の割合は89.9%で、令和6年度の結果（88.3%）より1.6ポイント上昇している。特に強肯定の回答の割合は2.2ポイント上昇している。
- 目標の90%以上には0.1ポイント届いていない。

基本目標の達成を測る目安となる測定指標の状況

基本目標 2 「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」



<測定指標>

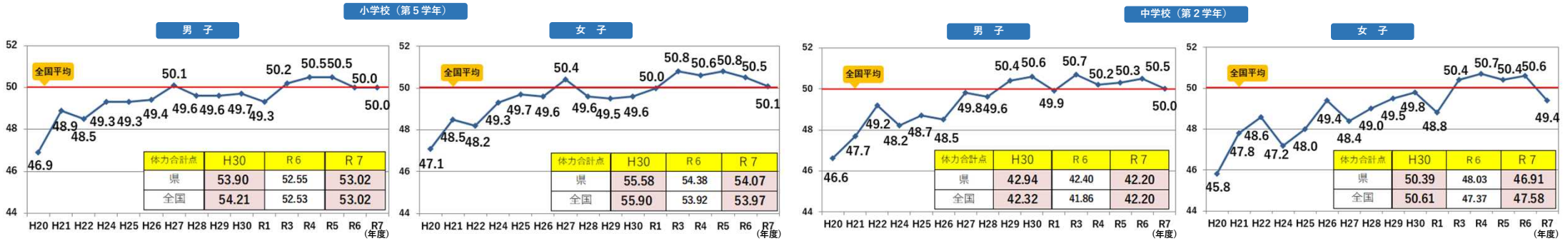
全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年、中学校2年）において、

●小・中学校の体力合計点は、継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる。

※平成30年度が全国・県ともに体力合計点のピークであったため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すことを目指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」を設定

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 ◇体力合計点（8種目の実技の総合点）の推移

※平成23年度は東日本大震災の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査未実施 ※数値 表：体力合計点 グラフ：T得点（全国平均=50）



■令和7年度の本県の体力合計点は、小学校女子は全国平均を上回っており、小学校男子及び中学校男子は全国平均と同じ、中学校女子は全国平均を下回っている。また、令和6年度の本県の結果と比較すると、小学校男子は上回っているが、小学校女子及び中学校男女は下回っている。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年、中学校2年）において、

●総合評価でDE群*の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。

小男子 H30 : 30.1% (28.8%) ⇒ R6 : 35.0% (35.9%) ⇒ R7 : 33.7% (34.2%)
 小女子 H30 : 23.8% (22.5%) ⇒ R6 : 29.6% (30.8%) ⇒ R7 : 29.9% (30.6%)
 中男子 H30 : 27.6% (27.8%) ⇒ R6 : 28.8% (30.9%) ⇒ R7 : 29.3% (30.0%)
 中女子 H30 : 11.7% (10.8%) ⇒ R6 : 17.9% (19.2%) ⇒ R7 : 21.1% (18.8%) ※ () 内は全国平均

*DE群は、体力テストの総合評価において、よい方からABCDEの5段階に分類された4、5段階に属する群

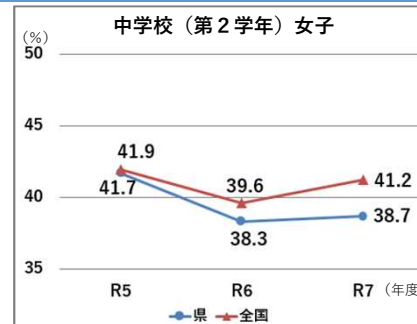
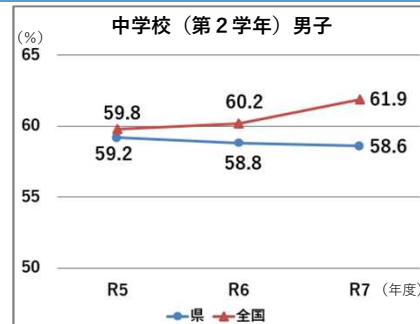
■令和7年度のDE群の児童生徒の割合は、小学校男女及び中学校男子は低く、中学校女子は高い。

■平成30年度と比較すると、全国平均や本県の結果には及ばず、コロナ禍前の水準には戻っていない。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

（中学校2年）において、

●「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。



■「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合を全国平均と比較すると、男女ともに下回っている。また、令和6年度の本県の結果と比較すると、男子は強肯定の割合が下降しているが女子は上昇している。

基本目標2「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」

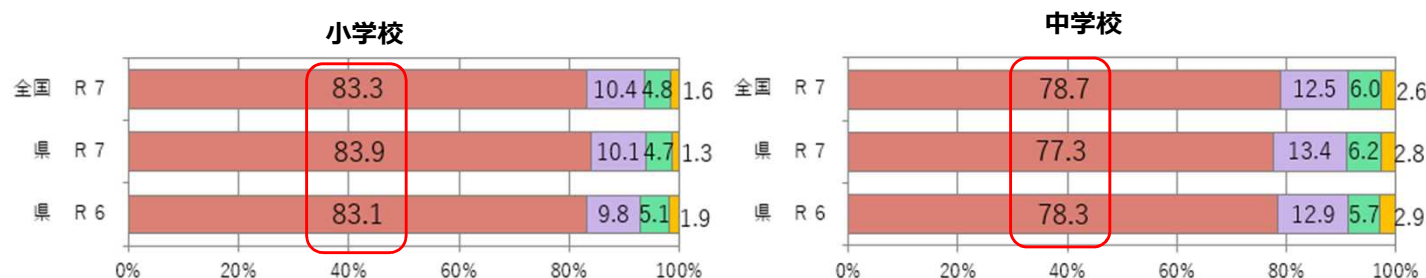


<測定指標>

全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査（小学校6年、中学校3年）において、

●規則正しい睡眠や食事などの基本的な生活習慣に関する項目の肯定的割合が全国平均を上回る。

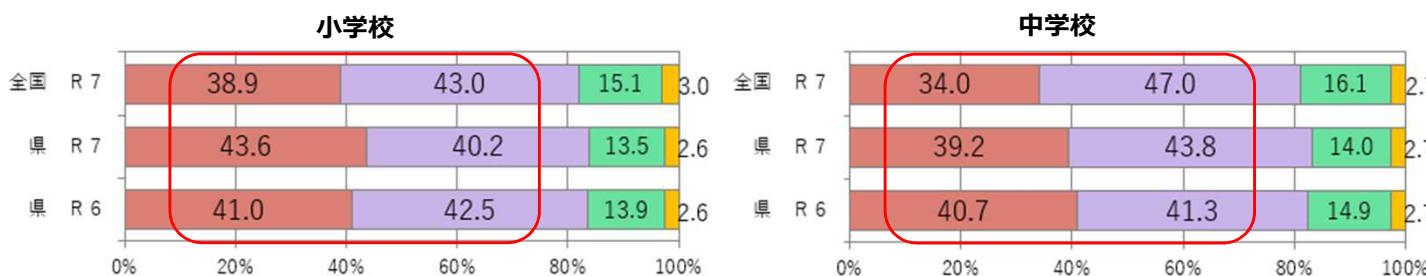
①「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。



■「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校では0.6ポイント上回り、中学校では1.4ポイント下回った。

■また、前回調査と比較すると、小学校では0.8ポイント増加し、中学校では1.0ポイント減少した。

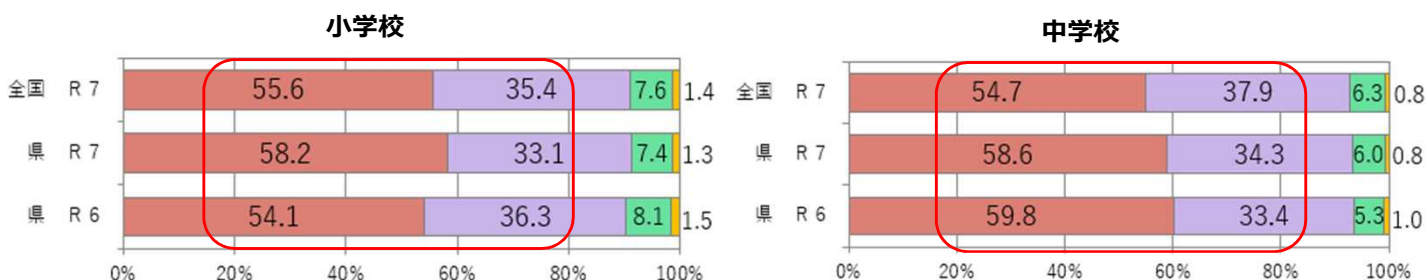
②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合(%)



■「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校では+1.9ポイント、中学校では+2.0ポイント上回っている。

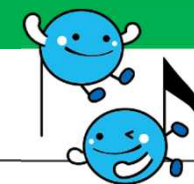
■また、前回調査と比較すると、小学校では0.3ポイント、中学校では1.0ポイント増加している。

③「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合(%)



■「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校では+0.3ポイント、中学校では+0.3ポイント上回っている。

■また、前回調査と比較すると、小学校では0.9ポイント増加し、中学校では0.3ポイント減少した。



基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

＜測定指標＞【義務教育段階】

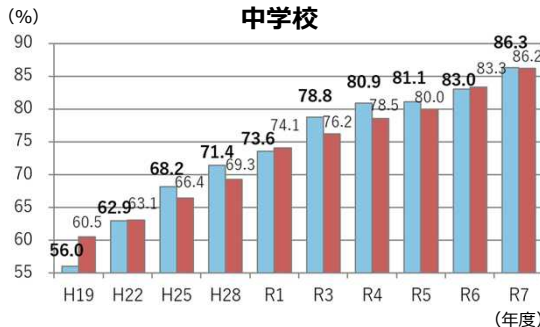
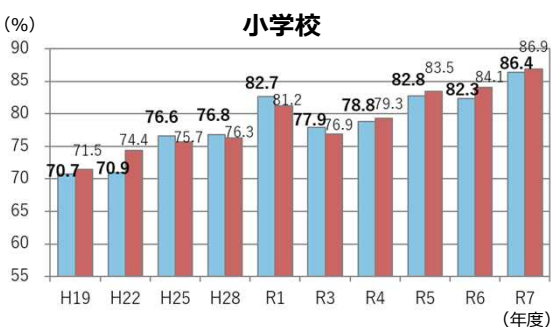
全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査（小学校6年、中学校3年）において、

●道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。

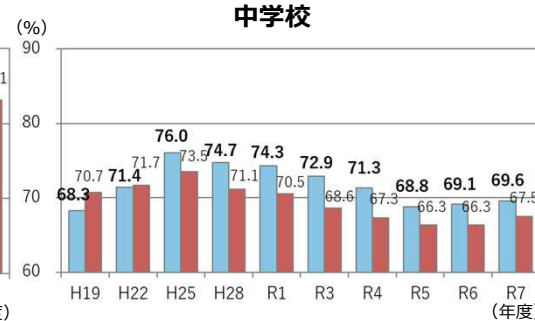
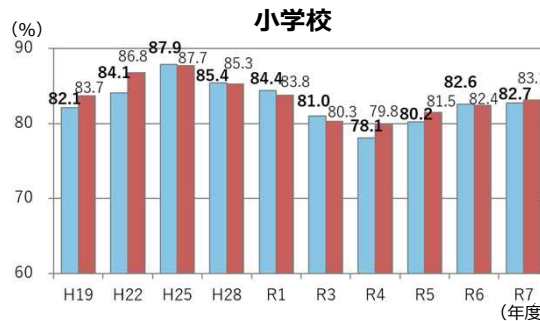
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査未実施

※各質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合（%）

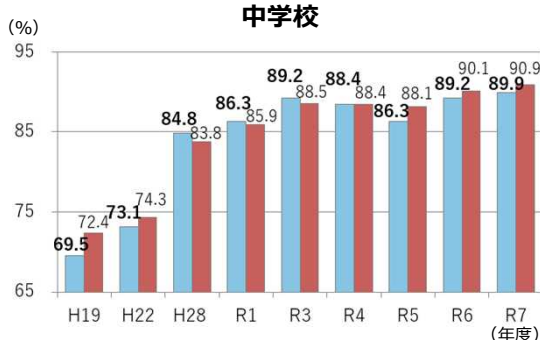
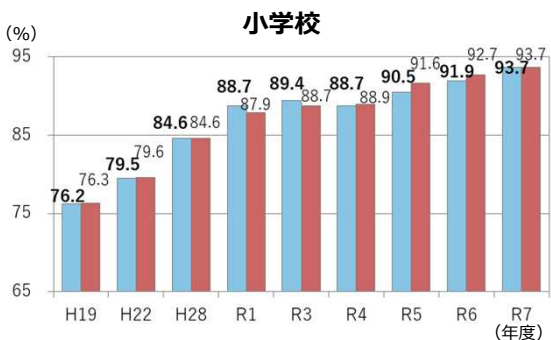
①「自分には、よいところがあると思う」



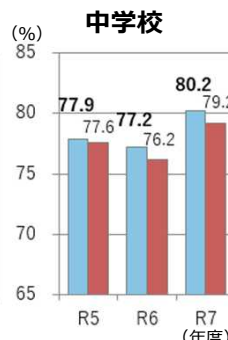
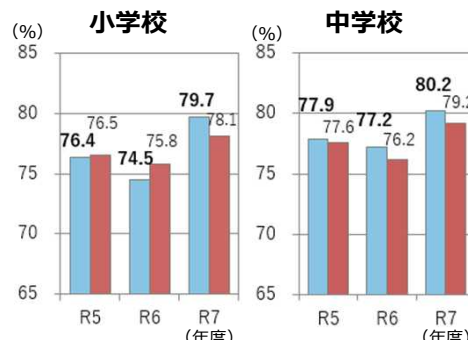
②「将来の夢や目標を持っている」



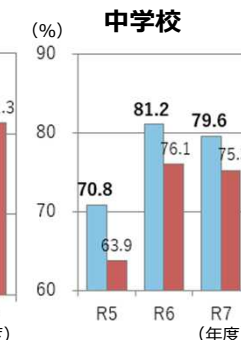
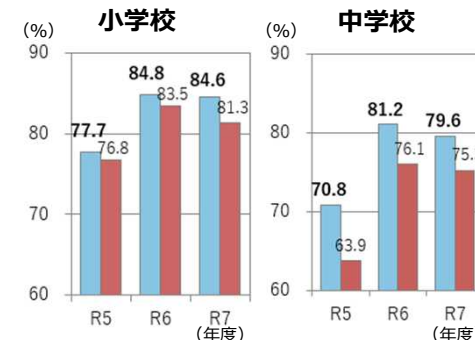
③「人が困っているときは、進んで助けている」



④「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」



⑤「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」



- ①の自尊感情に関する質問の肯定的回答の割合については、中学校において年々増加傾向にある。小学校においては、令和3年度に肯定的回答が落ち込んだが、その後増加傾向がみられる。前回調査と比較しても、小学校は4.1ポイント、中学校は3.3ポイント増加した。
- ②の夢や志に関する質問の肯定的回答の割合については、小・中学校ともに若干増加傾向がみられる。前回調査と比較しても、小学校は0.1ポイント、中学校は0.5ポイント増加した。
- ③の思いやりに関する質問の肯定的回答の割合については、前回調査と比較すると、小学校では1.8ポイント、中学校では0.7ポイント増加している。
- ④の多様性・包摂性についての理解に関する質問の肯定的回答の割合については、前回調査と比較すると、小学校では5.2ポイント、中学校では3.0ポイント増加している。
- ⑤の公共の精神に関する質問の肯定的回答の割合については、全国平均と比較すると、小学校では3.3ポイント、中学校では4.3ポイント上回っている。しかし、前回調査と比較すると、小学校では0.2ポイント、中学校では1.6ポイント減少している。

基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

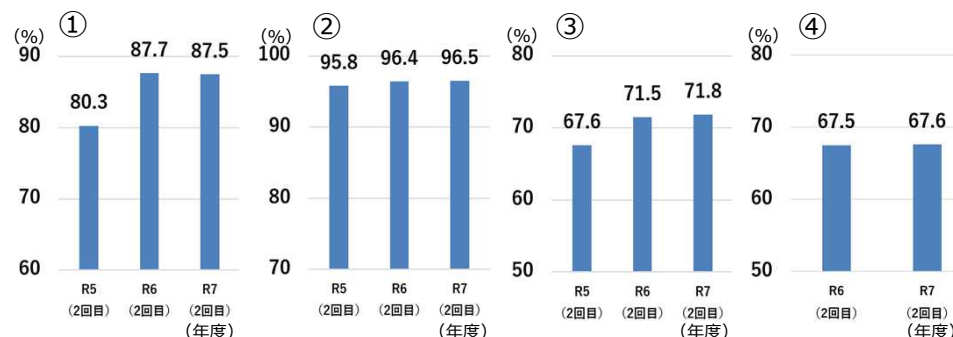
＜測定指標＞【高等学校段階】
県調査（高校3年）において、

● **道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。＜高校3年2回目調査＞**

- ①「自分という存在を大切に思える」
- ②「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」
- ③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」
- ④「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」

※＜参考＞同一集団R7（3年次1回目調査結果） ①87.5%、②95.9%、③67.3%、④60.7%

※対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒



- ①の自尊感情に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して0.2ポイント減少している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して変化がない。
- ②の他者理解に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して0.1ポイント増加している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して0.6ポイント増加している。
- ③の公共の精神に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して0.3ポイント増加している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して4.5ポイント増加している。
- ④の社会参画に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して0.1ポイント増加している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して6.9ポイント増加している。

＜測定指標＞

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査において、

● **生徒指導上の諸課題（いじめ、暴力行為）の状況を改善させる。**

①いじめの解消率を全国平均以上にする。

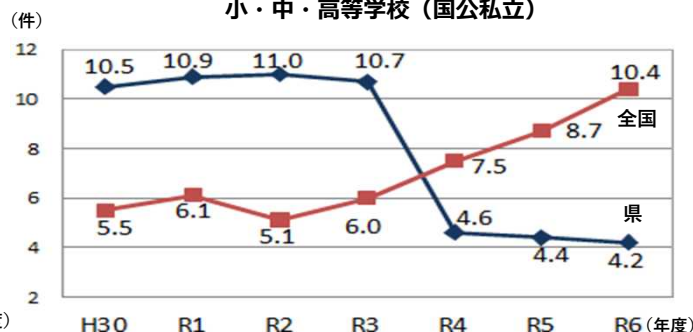
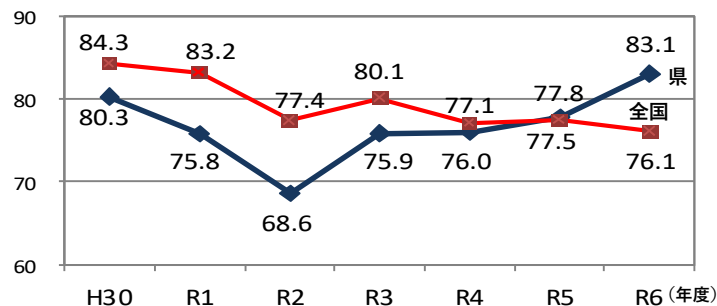
②暴力行為の発生件数を全国平均以下を維持する。

◇いじめの解消率

◇暴力行為 ※件数は1,000人当たりの発生件数

小・中・高・特別支援学校（国公立）

小・中・高等学校（国公立）



■ 県のいじめの解消率は83.1%で、前年度より5.3ポイント増加しており、令和2年度から増加傾向にある。

■ 県のいじめの解消率は、全国平均を7.0ポイント上回る結果となっている。

■ 県の1,000人当たりの暴力行為の発生件数は4.2件で、前年度より0.2ポイント減少している。

■ 令和4年度から大きく減少しており、令和6年度も全国平均（10.4件）を6.2ポイント下回る結果となった。

※＜参考値＞R6（国公立）

1,000人当たりのいじめの認知件数：54.5件（全国：61.3件）

1,000人当たりのいじめの重大事態発生件数：0.11件（全国：0.11件）

基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」



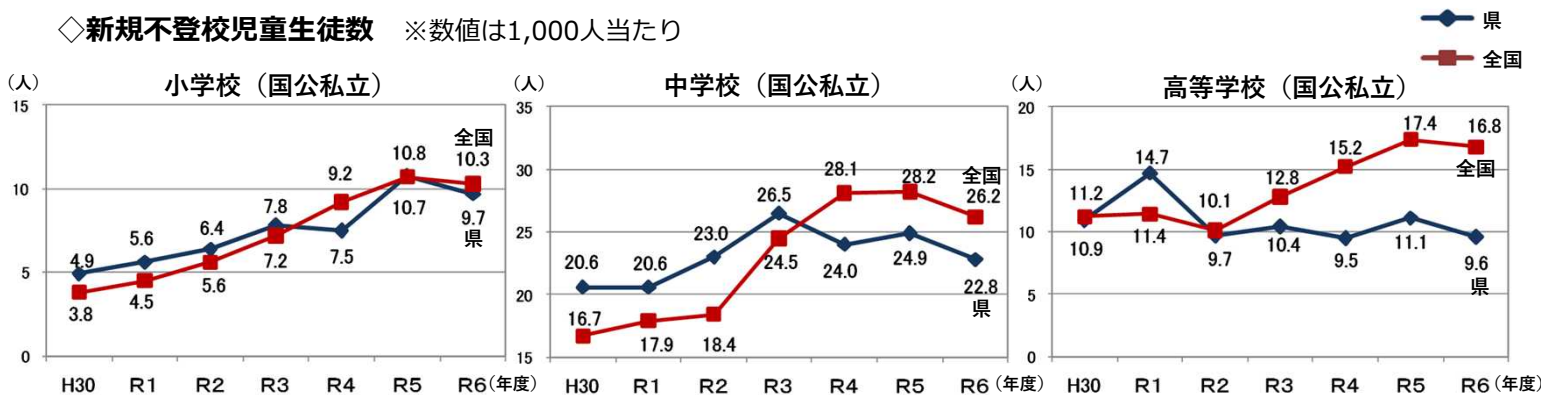
<測定指標>

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査において、

●不登校について、

①1,000人当たりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下を維持する。

◇新規不登校児童生徒数 ※数値は1,000人当たり

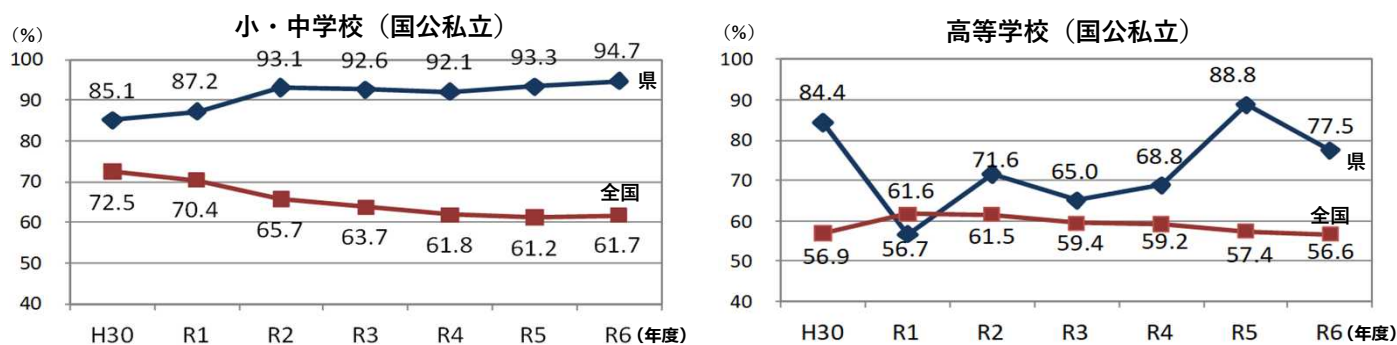


■ 県の新規不登校児童生徒数について、小学校は9.7人（前年度より1.1人減）、中学校は22.8人（前年度より2.1人減）、高等学校は9.6人（前年度より1.5人減）という結果となった。

■ 全校種ともに県の新規不登校児童生徒数は、全国平均を下回る結果となった。

②不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる。

◇不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合



■ 県の不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合について、小・中学校は94.7%（前年度より1.4ポイント増）、高等学校は77.5%（前年度より11.3ポイント減）という結果となった。

■ 小・中学校は、全国平均（61.7%）と比較すると、33.0ポイントと大きく上回った。

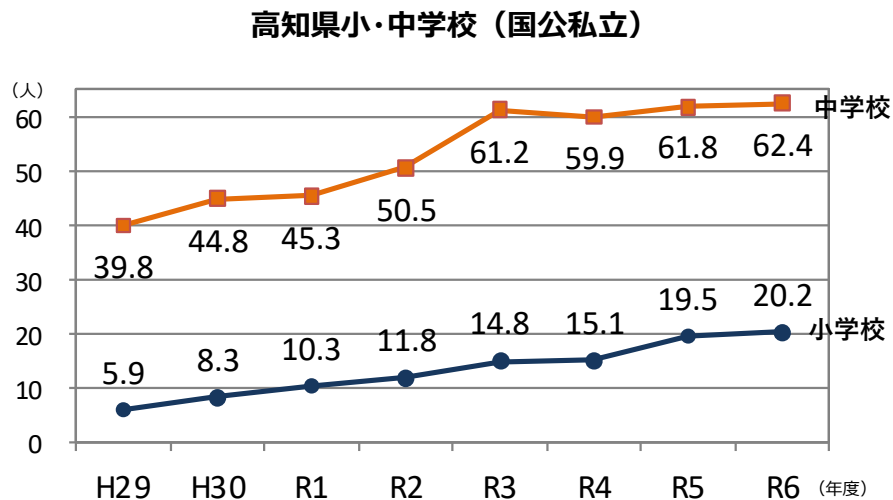
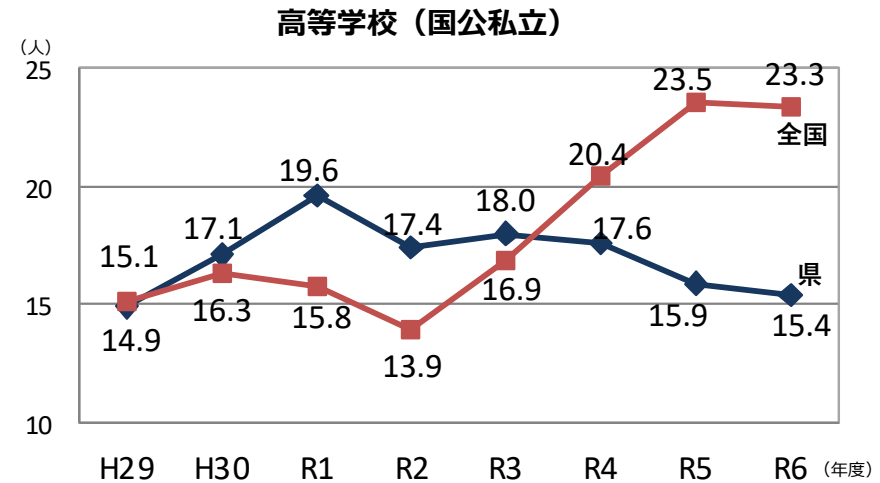
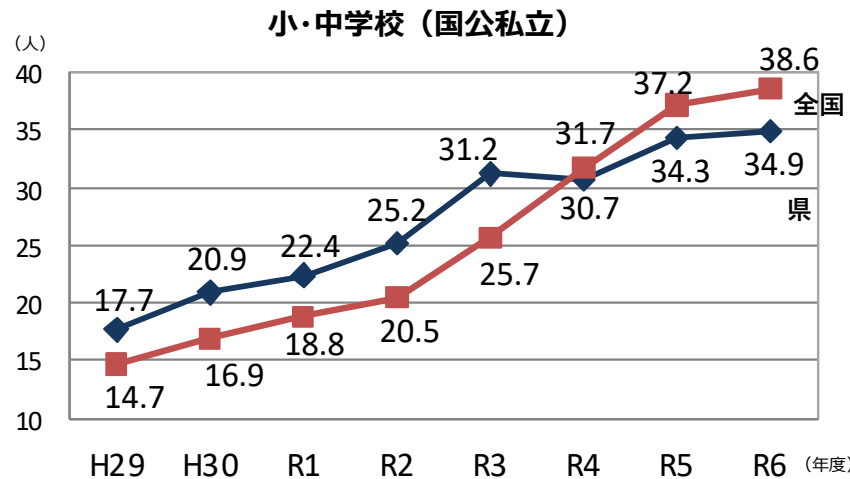
■ 高等学校は、全国平均（56.6%）と比較すると20.9ポイント上回った。

基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

【参考】

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 ＜不登校＞

◇不登校児童生徒数 ※数値は1,000人あたり



【参考】

- 令和6年度全国調査によると、小・中学校の1,000人あたりの不登校児童生徒数については、前年度より増加が見られたが、全国平均との比較では3年連続それを下回る結果となった。
- 高等学校の1,000人あたりの不登校生徒数は、昨年度より0.5人減少しており、全国平均との比較では3年連続それを下回る結果となった。